

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 21年2月－貿易収支(季節調整値)は8ヵ月ぶりの赤字

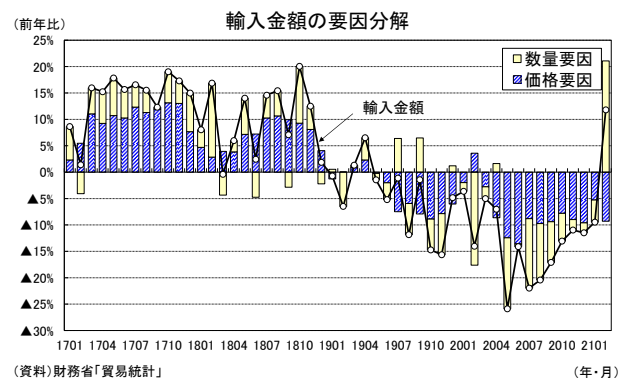
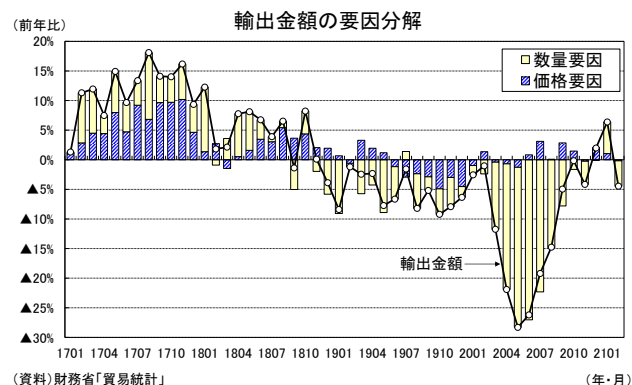
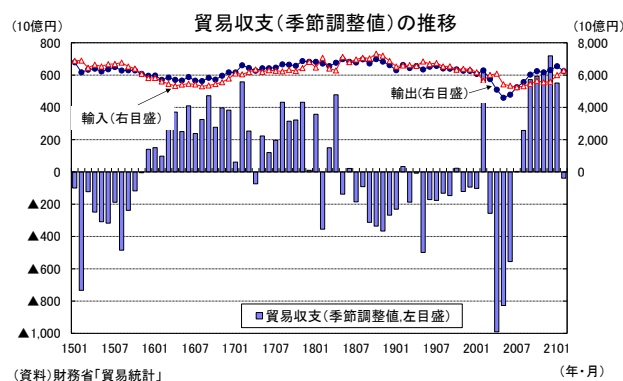
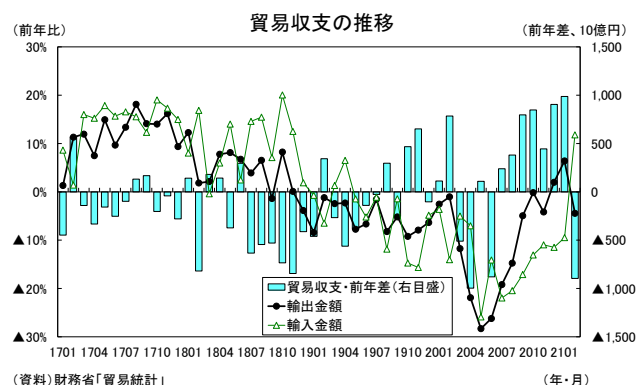
経済研究部 経済調査部長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易収支(季節調整値)は8ヵ月ぶりの赤字

財務省が3月17日に公表した貿易統計によると、21年2月の貿易収支は2,174億円の黒字となったが、事前の市場予想(QUICK集計:4,200億円、当社予想は5,946億円)を下回る結果となった。輸出が前年比▲4.5%(1月:同6.4%)と3ヵ月ぶりの減少となる一方、輸入が前年比11.8%(1月:同▲9.5%)と1年10ヵ月ぶりの増加となったことから、貿易収支は前年に比べ▲8,957億円の悪化となった。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲4.3%(1月:同5.3%)、輸出価格が前年比▲0.2%(1月:同1.0%)、輸入の内訳は、輸入数量が前年比22.0%(1月:同▲4.3%)、輸入価格が前年比▲8.4%(1月:同▲5.4%)であった。

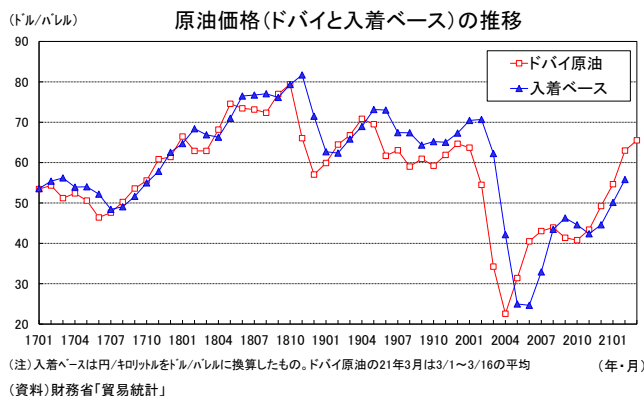


輸出の減少は中華圏の春節が2月だった(去年は1月)影響が大きく、実勢として輸出が大きく

落ち込んだわけではない。また、輸入の高い伸びは、昨年2月に新型コロナウイルスの影響で中国からの輸入が大幅に落ち込んだ裏が出たことによるものである。

季節調整済の貿易収支は▲387億円と8ヵ月ぶりの赤字となった（1月は5,511億円の黒字）。輸出が前月比▲4.7%と3ヵ月ぶりに減少する一方、輸入が前月比4.7%の増加となった。

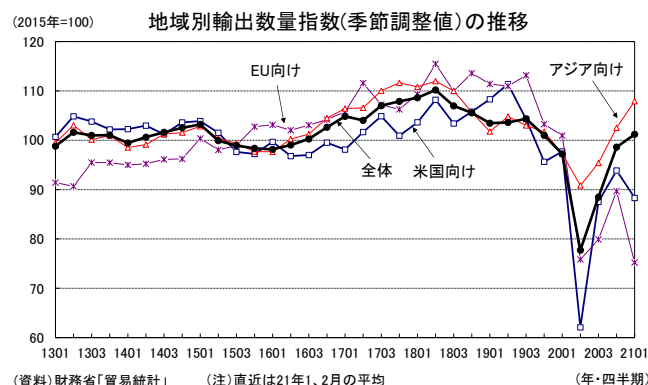
2月の通関（入着）ベースの原油価格は1バレル＝55.8ドル（当研究所による試算値）となり、1月の50.1ドルから上昇した。原油価格（ドバイ）は12月（平均）の50ドル程度から足もとでは60ドル後半まで大きく上昇している。当面は、原油価格上昇に伴う輸入価格の上昇が貿易収支の悪化要因となるだろう。



2. 輸出は欧米向けの落ち込みをアジア向けの好調がカバー

21年2月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲16.4%（1月：同▲8.7%）、EU向けが前年比▲23.9%（1月：同▲26.1%）、アジア向けが前年比▲0.4%（1月：同18.4%）、うち中国向けが前年比10.0%（1月：同44.8%）となった。

21年2月の地域別輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）で見ると、米国向けが前月比▲3.1%（1月：同▲1.5%）、EU向けが前月比4.0%（1月：同▲11.5%）、アジア向けが前月比▲10.6%（1月：同7.8%）、うち中国向けが前月比▲21.7%（1月：同16.6%）、全体では前月比▲4.6%（1月：同4.7%）となった。



2月はアジア向けの輸出が特に弱かったが、中華圏における春節の時期のずれによって、1月に前倒しされていた影響が大きい。21年1、2月の平均を20年10-12月期と比較するとアジア向けは5.3%高く（中国向けは7.3%）、米国向けは▲5.9%、EU向けは▲16.1%低い（全体は2.6%高い）。1、2月を均してみれば、アジア向けが好調を維持する一方、20年10-12月期に続き21年1-3月期もマイナス成長が見込まれている EU向けは大きく落ち込んでおり、米国向けも好調が続いていた自動車輸出が減少に転じたことなどから、弱い動きとなっている。

輸出は、欧米向けの落ち込みをアジア向けの増加がカバーする形で全体としては回復基調を維持しているが、そのペースは大きく鈍化していると判断される。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。